

ひとよ 人の世の

■ 楽曲データ

歌詞：八谷秋剣 作詞

楽曲：服部正 作曲

発表：大谷楽苑 1948年

初演：毎日大阪会館 1948年

初出：『讃仰歌』 大谷楽苑 1948年

管理番号：M0194

■ 創作の経緯

大谷楽苑より「讃仰歌」第5番として発表。歌詞は公募による。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第4巻収録

底資料：『讃仰歌』 大谷楽苑 1948年

比較資料：—

校訂の詳細：特になし

■ 解説

大谷楽苑は、真宗大谷派第24代門首大谷光暢・智子夫妻により1947（昭和22）年に創設され、全国各地への演奏旅行やラジオ放送などを通じ、終戦後の人びとに日々の安らぎと生きる勇気を与えてきました。《人の世の》は、そのような時代背景のなかで生み出され、多くの方々に愛唱されてきた作品です。

◆ 作詞・作曲について

作詞は、八谷秋剣（経歴等、詳細不明）。朝・夕・夜のひとときにみ教えを味わう情景を、平明な言葉で綴り、生活に根差した明るい詞に仕上げています。

作曲家の服部正（1908～2008）は、東京生まれ。1931（昭和6）年、慶応義塾大学法律科の出身ですが、在学中に作曲コンクールで入賞したことをきっかけに、作曲家を志しました。卒業の翌年から帝国音楽学校（戦災により1945年廃校）の講師を、戦後は1953（昭和28）年から約20年間、国立音楽大学教授を務めました。一方、1940（昭和15）年頃からは、ビクター専属の作曲家として東宝や新東宝の映画音楽に携わり、NHKの放送音楽の作・編曲や指揮でも活躍。《ラジオ体操第一》のほか、万葉集に詠まれた伝説を題材とするオペラ《真間の手古奈》などの作品を遺しています。

◆演奏のヒント

ゆったりとした4分の3拍子の音楽です。楽譜冒頭に、「Andante cantabile アンダンテ・カンタービレ」と記されています。「アンダンテ」は歩くような速さのこと、「カンタービレ」は「歌うように」という意味です。

4小節をひとまとまりとして、歌いましょう。

① 6小節目のように、3拍子で「2分音符＋4分音符」というリズムを歌うときは、2分音符を長く伸ばしすぎ、3拍目が遅くなりがちです。気を付けましょう。

② 6小節目3拍目から7小節目にかけて、「ファ」→「シ♭」の音程を正しくとりましょう。

⑤ 9小節目の上昇音階がスムーズに歌えるよう、練習しましょう。特に、いちばん高い音（レ）がちゃんと届くように。

⑥ 11・15・19小節目は、8分音符のつぶをそろえて、なめらかに。

⑦ 11小節目の「レ」→「シ♭」の音程も気を付けましょう。

⑨ 17・18小節目のフォルテは、声の響きを豊かに。

⑩ 4番まで歌うときは、2番のあとに、前奏を間奏として挟んでもよいでしょう。

◆音源

温かみのある雰囲気のある楽曲なので、BGMとしても適しています。器楽版の音源は、CD『和雅音』に収録されています。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 43（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第170号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.